

ガバナー就任に際して

国際ロータリー第2660地区

ガバナー 岩田 宙造



『ロータリーは人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることを奨励し、かつ世界における親善と平和の確立に寄与することを目指した、事業および専門職務に携わる指導者が世界的に結び合った団体である』と定義されています。そして一世紀にわたるロータリアンの皆様方の数々の奉仕活動、その成果（特にポリオ・プラス・プログラムは世界的に注目されている）に対し数多くの人たちが高い評価を与え、感謝し、更なる活躍を期待しています。この度国際ロータリー第2660地区ガバナー就任にあたり、歴代ガバナーをはじめ、クラブ会員の皆様方のたゆまない努力により築き上げられた素晴らしい地区の伝統と成果に深く敬意を表しますと共にその重責を痛感しております。

この1年間皆様方のお力添えをどうぞ宜しくお願い申し上げます。

ウィリアム B. ボイド RI 会長のテーマと活動方針の概略

★テーマ

ロータリーは個々の集まり以上の存在であり、多様性こそがロータリーの強みであるといわれています。よりよい未来を築くためには、寛容の精神、違いに対する容認、高い倫理的価値が成功に至る道であると前置し、

テーマとして『Lead The Way：率先しよう』を選ばれました。

テーマはロータリアンが世界を変える力を持っているというRI会長の信念を表しています。「親睦と奉仕を通じて明るい未来をもたらすために、120万人のロータリアンが力をあわせ率先していくのです。私達ロータリアンは、よりよい世界を夢見るだけでは十分でないことを知っています。よりよい世界は真のニーズを特定し慎重な計画をたて、地域社会や諸団体と協力しながら誠実な協力、ひたむきな努力をすることによってのみ実現するのです。」また、「私達ロータリアンはただ実現を待ち望むだけではありません。現状維持に甘んじることなく、生じた問題に対して解決しようじゃないかと、自ら先陣を切り「率先しよう」と立ち上がって頂きたい。」とのRI会長の思いがテーマとなっています。

★強調事項

継続の重要性からも以下の4事項が選ばれました。ただ、実践に当たっては、特に実用性を重んじ、最も必要とされているところに努力を注ぐことを付け加えられました。

①水保全 ②識字率向上 ③保健および飢餓 ④ロータリー-家族

強調事項に関連して、地区支援グループ・コーディネーター、広報支援グループの2つのグループの設置も提案されました。

★会長賞

前年度に引き続き、多くのクラブを表彰するために設けています。より良い未来へ向けてテーマ『Lead The Way: 率先しよう』を実践しましょう。着実な計画と努力をもって、活動は実用性を重視して下さい。ローターアクト会長賞も同様です。

★CLP(クラブ・リーダーシップ・プラン: Club Leadership Plan)の採用を推奨

近年地区組織の効率が危機にさらされていますことから、RIは内部組織の変更を考え、DLP(地区リーダーシップ・プラン: District Leadership Plan)を考案し、2002年にはすべての地区が採用することになりました。このDLPの基本概念をクラブ・レベルに適用し、効果的なRCの管理の枠組みとしてCLPの採用を推奨し、より一層のクラブの発展を期待しています。CLPは奉仕の第2世紀においてロータリーが安定、成長、成功をとげるために極めて重要とされています。

終わりに

ビル・ボイド会長の講演の中で特に心に残った話として、引用された諺、「人に魚を一匹与えればその日の飢えをしのがせることが出来るが、釣りの技術を教えれば、一生魚に困らない生計を与えると同じことになる。」を紹介しておきます。

地区活動方針

地区として新たにテーマを設けることは禁じられていますことから

『Lead The Way: 率先しよう』を実践するにあたり、行動するための指針ともなり、または補足説明するものとして、RI会長の言葉を借りて

『ニーズを見極め、誠実な協力、ひたむきな努力を』を加えます。

RI会長の方針に対して地区として、大きく4つの課題が考えられます。

第1は4つの強調事項の実践

第2は会長賞への積極的参加

第3はCLPの検討

第4はIMのテーマ

であります。これらについて以下、順に説明させていただきます。

1) 強調事項について

もちろんRI会長が提案された4つの強調事項が主題ではありますが、それらの問題を考えるとき付随し、密接な関係にある親睦と教育を副題として、併せて考えていただければと思っています。

①水保全 ②識字率向上 ③保健および飢餓

3点については何れもが密接な関係にあり、切り離せない問題と考えています。継続した強調事項でもあり、活動の継続性が重視されていることも考慮し、人道的補助金プログラムの積極的な活用による奉仕活動をお願いいたします。すでに当地区は皆様方の努力により高い実績を誇っていますが、さらにニーズを見極めてお願いしたいと思います。

これに関連してどうしてもお願いせねばならないことがあります。補助金の財源となる寄付のお願いです。地区へ還元される補助金は地区の年次寄付金の額によって決まります。RIから還元される補助金（年々減額され、次年度は60%から50%にダウン）の基となる年次寄付金、資金源ですが、過去5年間、当地区の実績は会員一人平均約128ドルでしたが近年減少傾向にあります。より活発な活動を行うためにも出来ればこの平均以上の年次寄付をお願いしたいと思っています。

また、国内の身近な問題として、水保全に関しては環境保全の問題、保健に関しては薬物乱用防止等大きな問題を抱えております。これらの諸問題を解決するにはその根本の問題として、教育の重要性が再認識されています。

この点についても併せてご配慮をお願いします。

④ロータリー家族

新たに加わったものですが、これに関連しては、家族も含めての会員同士の友好・親睦を特にお願ひしたいと思います。私も過日の国際協議会で新しく素晴らしい仲間の人たちを知ることが出来ました。皆様の仲間にも素晴らしいロータリアンが居られます。仲間同士の友好・親睦を深め、お互いに相手をよく知るにより、より一層、自分自身を高めることが出来、（今流行の品格、品位の向上と言うのでしょうか？）ロータリーをエンジョイしていただけるものと思います。明るい、楽しいロータリーは地域の人からも親愛され、仲間に入れて欲しいと思われるロータリークラブになるものと思っています。

もう一つは、若者たちの問題です。RI会長が指摘されましたように、若者たちが私たちの未来であります、インターアクト、ローターアクト、青少年交換、その他、数多くの青少年のためのプログラムの重要性を理解し、支援しますと同時に将来を託せる若い人材の育成、教育についても積極的なご討論をお願いしたいと思います。

嬉しいニュースをお伝えします。当地区インターアクトのメンバー大阪桐蔭高校2年生の鈴江祐希さんがこの度これまでの実績が評価され、薬物乱用防止の啓発運動を行う民間国連ヤング大使に、全国から6人のうちの1人として選ばれましたことは地区としても誠に名誉なことと思ひ、皆様にあらためてご披露させていただきます。

教育の重要性が再認識されています今日、我々の大先輩である元RI理事、菅生浩三パスト・ガバナーが著書に“21世紀『人間教育』への新提言”を数年前に発表されています。

是非ご参考に、ご一読をお勧めしたいと思います。

2) 会長賞

クラブこそが、ロータリーの最も重要な仕事の担い手であり、数多くのクラブの業績を表彰することが目的とされています。積極的にクラブのプロジェクトに参加すればクラブは充実し、効果的となりクラブは成長し繁栄する可能性も高まります。申請には積極的に支援します。

ローターアクト会長賞：ローターアクト・クラブの活性化につながることから、申請には積極的に相談にのります。

3) CLP

ロータリーの綱領に基づいて四大奉仕部門があり、四大奉仕はクラブ活動の理念であり実践の枠組みであります。さらにロータリーはクラブが主体であり、多様性こそはロータリーの強みであることを前提としています。

CLPはDLP(ガバナー補佐、地区研修リーダー、各種地区委員会で構成。ロータリーを強化する構想であり、クラブへの支援をより迅速に、より綿密に行う)の基本概念をクラブ・レベルに適用し、効果的なロータリークラブの管理の枠組みとして、RI理事会が採択したものです。

CLPの採用に向けては、地区より情報は出来る限り提供させていただきますが、クラブ自身もIM内の会議等を通じて他クラブからも色々な情報を集め、それぞれのクラブの事情を十分に考慮して、CLPを検討して頂きたいと思えます。地区としてもクラブからの相談に乗れるよう専門委員会を早急に設置し、対応致します。

4) IMのテーマについて

4つの強調事項およびそれに関連する、または支援する事項について各クラブの特徴を生かしてテーマを選んでください。

終わりに

前年度の方針を引き継いで行うことを原則として、RI会長の強調事項を実践するに当って、それらに密接に関係する親睦と教育を副題として活動を進め、会長賞へは積極的に参加しCLPについてはクラブでの十分な検討をお願いし、活動のより一層の発展、充実に努めたいと思えます。そのためにも皆様方の活動への積極的な参加、ご理解、ご協力が何より重要と考えています。地区組織内はもとより皆様方同士も含めてしっかりと情報の共有に努力し、特に会長、ガバナー補佐、私どもとの間のチームの団結を図りRI第2660地区の発展に努力したいと考えていますのでどうぞ宜しくご支援の程お願い申し上げます。

『Lead The Way：率先しよう』！ です。

ガバナープロフィール

第 2660 地区ガバナー

岩 田 宙 造

生 年 月 日 1935 年 (昭和 10 年) 3 月 25 日
住 所 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1丁目1番3-267
最 終 学 歴 大阪大学大学院薬学研究科博士課程修了、薬学博士
職 歴 1965年 9 月 米国アイオワ州立大学博士研究員
 1980年 4 月 大阪大学薬学部教授
 1982年 12 月 大阪大学附属図書館薬学部分館長
 1985年 5 月 大阪大学評議員
 1989年 6 月 大阪大学薬学部長
 1991年 4 月 日本薬学会理事
 1994年 4 月 日本学術振興会専門委員
 1995年 7 月 大阪大学薬学部附属植物園長
 1997年 4 月 日本薬学会近畿支部長
 1998年 3 月 大阪大学停年退官
 1998年 4 月 大阪大学名誉教授
 2002年 10 月 薬効ゲノム情報(株) 代表取締役社長
 2005年 10 月 薬効ゲノム情報(株) 取締役会長
 財)日本食品化学研究振興財団 評議員
 財)サントリー生物有機科学研究所 評議員
 財)先端医療振興財団 技術評価委員会委員
 社)生産技術振興協会 理事
 社)日本薬学会近畿支部 顧問
 NPOおおさか大学起業支援機構 評議員
ロ ー タ リ ー 歴 1984年 5 月 大阪南 R C 入会
 1996~97年度 社会奉仕担当理事
 1999~00年度 国際交流委員会委員長
 2001~02年度 国際奉仕担当理事
 2003~04年度 会長 エレクト
 2004~05年度 会 長

ポール・ハリス・フェロー
 ベネファクター
 米山功労者(マルチプル)
 職業分類 教 育

